

私事になりますが、この5月5日は私の58回目の誕生日でした。
58歳という年齢は、70代、80代、90代そして100歳を超えても元気で活躍されておられる方々から見れば、まだまだ若輩でしかありませんが、個人的には58年の歳月を振り返ってみて、やはり、さまざまな感慨を持ってその重さを考える年齢でもあります。

私は、昭和27年熊本県八代郡千丁村という人口8,000名程の有明海の干拓地の小さな村で生まれ育ちました。
子供の頃、5月5日の誕生日は、母が朝から菖蒲を入れた風呂を沸かしてくれていて、頭に菖蒲を巻いて菖蒲湯にはいるのが誕生日の一日の始まりでした。
あれは、「また一年元気で育ってくれる様に」との母の想いであったと思っています。
今から50年程前の有難く且つ懐かしい思い出です。
そして、縁もゆかりもない新潟へ来たのが38年前の1972年。
独立開業して今年で30年目。
その間、さまざまな人と出会い、また、仕事でも国内各地から海外へとその輪が広がり、改めて歳月の流れとその重さを感じます。



30代の半ばに伝記小説作家の故小島直記先生から「人生五計」について学びました。

我々は人生で五つの計画を持たなければいけない

1. 身計(健康管理)
2. 生計(人生設計)
3. 家計(自分の収入と支出の計画、特にその収入の中で自分の将来あるいは周りにそれをどう使うかが重要)
4. 老計(歳のとり方)
5. 死計(死に方、終わり方)

というものでした。

この話を聞いたのは、私が30代半ばで、「身計」、「生計」、「家計」までは理解出来ましたが、「老計」、「死計」というのは正直余り実感が沸かなかったのは事実でした。

しかし、40代を過ぎ、50代になり還暦も近くなると、むしろ「老計」と「死計」の重さとその難しさを強く感じるようになってきています。

年と共に、肉体は徐々に衰えてはゆきますが、精神は死ぬまで進化し続けてゆけると言われています。「死」という現象も、年々親しい人達の死に直面する機会も増え、常にその事を意識する様にはなっていますが、「命」の終わりは自分で決められないものである以上、生きている限り常に学び続けてゆく事が、天より頂いた自分の「命」を全うするものだと思っています。

少にして学ばば 壮にして成すなり

壮にして学ばば 老いて衰えず

老いて学ばば 死して朽ちず

という言葉が有ります。

我々は死ぬ迄、それぞれの「天命」を尽すべく、学び続ける生き方を互いにしたいものです。